

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01017

研究課題名（和文）6～8世紀華北における南朝系人士の活動と文化融合

研究課題名（英文）The Activities and Cultural Fusion of Persons of the Southern Dynasties in North China from the 6th to 8th Centuries

研究代表者

小林 聡（Kobayashi, Satoshi）

埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：40234819

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、6～8世紀、つまり中国の王朝区分で言えば、南北朝後期・隋・唐(初唐)の時代において、被征服者である南朝の血統を持つ人々が、北方政権の中でどのような立場にあり、北方政権に対してどのような影響を与えたのか、という問題関心から出発した。研究にあたっては、編纂された史料の他に、北朝・隋・唐時代の墓誌を活用し、歴史書が語らない幅広い範囲の人物を掘り起こした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

周知のように、隋唐王朝は多様な民族的・文化的な要素によって構成されている。往々にして、この社会の多元性は中国内部における北方遊牧民に起源を持つ集団とソグド人をはじめとする西方民族の存在によって説明されてきた。本研究では、従来の研究とは違って、漢族内部の多様性に注目し、特に4世紀から6世紀にかけて形成されてきた、南朝系の人々を研究対象とした。墓誌の分析を中心とする一連の研究の結果、北朝から唐時代にかけての北方諸政権においても、南朝系の人々は婚姻によってアイデンティティを保持し、学術・文学的素養などによって政府に参入していったことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study started from an interest in the question of what position people of conquered Southern dynastic lineage held in the Northern regime and what influence they had on the Northern regime in the 6th-8th centuries, or in terms of Chinese dynastic divisions, the Late Northern, Sui, Early Tang and Sheng Tang dynasties. In conducting the research, in addition to compiled historical documents, the project utilised tombstones from the Northern, Sui and Tang dynasties to uncover a wide range of figures that the history books do not speak of.

研究分野：魏晋南北朝・隋唐制度史

キーワード：南北朝後期 隋唐帝国 南朝貴族 墓誌 唐王朝の南朝化

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

一般に隋唐帝国は国際性に富む多元的な社会・文化を持つとされているが、そこでは、突厥などの北方騎馬民族やソグド人をはじめとする西方諸集団が、中国本土に居住する漢族・北族などの諸集団と共存していた状況が想定されている。本研究では、そこから進んで漢族内部の多様性に注目し、特に旧南朝に由来する家系に属する人々を考察の対象とするが、研究にあたっては、伝世史料の他、近年出土が増えている北朝・隋唐時代の墓誌を素材として活用したいと考えた。

氣賀澤保規・梶山智史らの調査によると、現在、確認・公開されている墓誌は、北朝 1,211 点、隋 716 点(いずれも 2013 年段階)、唐 12,523 点(2015 年段階)にのぼる。これら墓誌の大部分を占める北朝系人士(北朝諸王朝支配下の人士、及び隋唐期を生きたその子孫、例えば閼隴集団)の墓誌については、国内外において一定の研究成果があるが、南朝系人士についての墓誌を系統的に扱った研究は極めて少ないと言える。

また、中国文学史研究においては、伝世史料に基づいて南朝的要素の隋唐文化への影響がしばしば指摘されるが、歴史研究の文脈の中で南朝から北朝・隋唐への影響を追求したものは少なく、歴史研究においても文学研究においても、虞世南・蕭瑀・褚遂良などの有名人に視線が向かいがちであり、南朝系集団全体に目配りが弱かったと言える。

なお、本研究と強い関連性を持つテーマとして、“唐代における南朝化”というものが挙げられる。これは“国家としての南朝は衰亡し、北朝系諸王朝に吸収されたが、南朝系の制度・文化などの諸要素は唐時代を通じて中国全体に浸透していき、この潮流が中国史上の大変動期である唐宋変革を生んだ”という大きな歴史的な趨勢を想定するものである。古くは陳寅恪・唐長孺らの先学が提唱したテーマであり、近年では牟發松が南朝的な制度(礼制・法制・税制)・文化(詩文・音楽)・学術(経学・仏教教学)・経済(貨幣経済)といった諸要素が唐王朝に継承されていることを論じ、これに対して、閻步克らが隋唐における南朝的要素を過大評価すべきではないとして反論するなど、活発な議論が続いている。

2. 研究の目的

研究代表者である小林は、著名人のみならず、男性・女性を問わず、様々な階層を含む社会集団としての南朝系人士を想定していつこそ、南朝系人士全体の特徴を明らかにできると考えた。特に、今まで見過ごされていた墓誌データを使えば、北遷(江南から長安・洛陽への移住)の事情や“南朝的なアイデンティティの形成と保持”があったか否かといった問題を明らかにし、隋唐社会の多様性の新たな側面を指摘し、創造的な研究をなし得ると考えた。

以上の見通しに基づき、本研究では、墓誌を活用しつつ、北朝・隋唐政権下における南朝系人士がどのような存在であったのかを探り、さらに南朝系文化要素の北方への伝播と融合の様相を検出することによって、隋唐王朝の持つ多様性を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

研究代表者である小林を中心に、研究分担者である大知聖子・戸川貴行が補助を行うかたちで、南朝系人士について家系単位で分析をおこなった。その際、特に以下の4点を意識して作業を行った。

南朝においてどのような境遇・地位にあったか、どのような経緯で北遷したか。

北遷後、南朝系人士はどこに居住したか、南朝系の家系としてのアイデンティティ(本貫の表記などを含む)や相互の連携(婚姻関係を含む)をいつまで保持していたか。

北朝・隋唐諸王朝は、彼らをどのように処遇したか。官職就任などの状況はどのようなであったか。南朝系人士は長安の中央政界に対してどのような影響力を持ったか。

北朝・隋唐諸王朝の制度や文化などに対して、南朝系人士はどのような影響を与えたか。
“ 唐代における南朝化 ” 現象にどのような関わりを持ったか。

なお、本研究で扱った墓誌群を、以下のように墓葬年代を主たる基準として7つに分類する。

- (a)北魏時代：墓葬年代 386 年～534 年。 直接の研究対象ではないが、予備的に収集。
- (b)東魏・北斉政権：墓葬年代 534 年～577 年。
- (c)西魏・北周政権：墓葬年代 535 年～581 年。 (b)と(c)は時期的に重複する。
- (d)隋時代：墓葬年代 581 年～618 年。
- (e)唐時代 : 墓葬年代 618 年～649 年...高祖期～太宗期。
- (f)唐時代 : 墓葬年代 649 年～713 年...高宗期～女性政権(武則天・韋后・太平公主政権期)。
- (g)唐時代 : 墓葬年代 713 年～756 年...玄宗期。

作業の手順は以下の通りである。

伝世史料の整理..... 『隋書』・『旧唐書』・『新唐書』・『資治通鑑』などの史書、『通典』・『唐会要』・『冊府元龜』などの政書、及び文学作品といった伝世史料から、南朝系人士に関する記事を収集・整理した。作業にあたっては当該時代の諸制度の推移・展開に明るい戸川貴行に助言・補助を求めた。

関連墓誌の収集とデータベース化.....また、北朝・隋唐における南朝系人士の墓誌からデータベースを作成した。その際、墓誌の出土地や外形(寸法)、誌蓋の文、誌文に記された姓名・字・本籍、死去と葬儀の年月日、享年、埋葬地などの基本データの有用な部分を入力していく。作業にあたって、北朝墓誌について IT を駆使した研究実績を積み上げている大知聖子に助言・補助を求めた。

関連墓誌の整理と分析..... 及び 得られたデータをもとに、上述のような観点から南朝系人士の分析を進め、南朝系人士の家系の復元、各世代の人士の移動、官歴、婚姻・交友関係などの状況を一定程度明らかにした。研究の過程で研究分担者の大知聖子は北朝墓誌研究を通じた墓誌解読のスキルに優れているので、その方面からのバックアップをおこない、戸川貴行は、南朝礼制・楽制の北朝・隋唐への伝播という観点から研究補助をおこなった。

4. 研究成果

既に小林は、本研究に先立って北朝隋唐における南朝系人士の家系に関して、問題提起や初步的な分析を行っており、本研究の基礎をなしている(1)。

本研究では、当初予定していた中国での調査は、新型コロナウイルスの問題や、研究代表者である小林の学内業務のために果たせなかったが、中国で新たに刊行された関連書籍の収集に努め、南朝系人士のデータベース(姓名・字・本籍、死去と葬儀の年月日、享年、埋葬地などの基本データからなる)を、北朝末期(東魏北斉・西魏北周)から唐の開元年間にかけての範囲内で一応完成させた。

データベース作成を踏まえた分析によって、まず侯景の乱以後の数年間(6世紀半ば)、及び隋

朝による陳朝征服後(6世紀末)の二つの時期が北遷のピークであり、これは正史や文学作品が描くイメージと同じものといえることが確認された。また、墓誌の婚姻に関する文言から、唐代(特に7世紀)においても、南朝系の家系は婚姻などを通じて南朝系としてのアイデンティティを保持していたこと、ただし、唐代における南朝系内部の家格の序列は、必ずしも南朝時代と同じではないことなどが、明らかになった。婚姻のデータは女性の墓誌の存在を抜きにしては成立しがたかったが、これに関連して、小林は、初唐期に属する洛陽近辺の孟津県唐出土した岑平等なる女性の墓の分析を行った(2)。同墓からは岑平等の墓誌の他、南朝系人士の唐墓としては珍しく、女楽俑をはじめとする多様な俑が出土していることもあって、同墓を分析したが、南朝系の家系に属する南陽劉氏に嫁いていることから、南朝アイデンティティは保持されていたと考えられるものの、女楽俑の服飾は北朝系統のものであり、実生活においては長安や洛陽の文化になじんでいたであろうと推測した。



図版：左は岑平等墓誌の誌蓋拓本(洛陽市第二文物工作隊、李献奇・郭引強編著『洛陽新獲墓誌』、文物出版社、1996年より転載)。右は岑平等墓から出土した女舞俑(東京国立博物館等編集『誕生！中国文明』、読売新聞社等、2010年より転載)。

引用文献

- (1)小林聡「北朝・隋唐における南朝系人士についての基礎的考察 理論的な枠組みの提示を中心に」、『埼玉大学教育学部紀要(人文)』66(1)、2017年、203～228頁。
- (2)小林聡「孟津県岑平等墓について 唐代における南朝系女性をめぐる」、『埼玉大学紀要 教育学部』73(1)、2024年、237～253頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林聡	4. 巻 126
2. 論文標題 Developments in Official Dress Regulations in the Han-Chin Period: With a Focus on the Spread of the System of Court Dress	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 93-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小林聡	4. 巻 73(1)
2. 論文標題 孟津県岑平等墓について 唐代における南朝系女性をめぐる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 教育学部	6. 最初と最後の頁 237-253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大知聖子	4. 巻 28
2. 論文標題 中国哲学書電子化計画の分析ツールを用いた北魏墓誌研究 類似性のネットワーク図とワードクラウドを中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名城大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大知聖子	4. 巻 51
2. 論文標題 北魏女性墓誌の特徴語の抽出および語義考証	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 九州大学東洋史論集	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大知聖子	4. 巻 59(3)
2. 論文標題 北魏男性墓誌の特徴語の抽出および語義考証	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名城大学人文紀要	6. 最初と最後の頁 33-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川貴行	4. 巻 67
2. 論文標題 The I-chu of 475 in the Liu Sung Dynasty: A Reconstruction of the History of the Southern Dynasties as Seen from Monographs on Rites and Music	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Transactions of the International Conference of Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 30-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大知聖子	4. 巻 27
2. 論文標題 テキストマイニングによる北魏墓誌の銘辞の分析 - KH Coderを用いた古典中国語(漢文)の数量的研究 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名城大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大知聖子	4. 巻 47
2. 論文標題 新出北魏墓誌目録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋大学東洋史研究報告	6. 最初と最後の頁 93-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林 聡	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 漢唐間における鼓吹と女楽の下賜 国家と音楽の関係の一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 教育学部	6. 最初と最後の頁 211-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大知聖子	4. 巻 45
2. 論文標題 北魏墓誌の銘辞とその撰文 同一銘辞の問題を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学東洋史研究報告	6. 最初と最後の頁 1 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川貴行	4. 巻 129-4
2. 論文標題 華北における中国雅楽の成立 五～六世紀を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小林聡
2. 発表標題 グローバル=ヒストリーの手法による「新しい歴史の捉え方」 6世紀とその後
3. 学会等名 関東歴史教育研究協議会 (埼玉大会) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林聡
2. 発表標題 漢唐間における国家と音楽 楽制と礼制・官爵制・服制の関係を中心に
3. 学会等名 中央大学人文科学研究所 共同研究チーム「世界史における“政治的なもの”」講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林聡
2. 発表標題 漢晋間における服制の展開 朝服制度の伝播を中心に
3. 学会等名 第66回東方学会議 シンポジウム : 漢晋変革の考古学的研究
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大知聖子
2. 発表標題 テキストマイニングの概要と意義 KHCoderを用いた中国語(漢文)分析の活用例を中心に
3. 学会等名 KU-ORCUS言語交渉研究班及び国際共同研究加速基金共同開催
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大知聖子
2. 発表標題 北魏墓誌の銘辞を用いたテキストマイニングによる文化的社会集団の復元
3. 学会等名 デジタル・ヒューマニティーズが拓く日本研究の新展開
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大知聖子
2. 発表標題 北魏女性墓誌の銘辞にみられるジェンダー規範 - テキストマイニングを用いた数量的研究
3. 学会等名 九州史学会 2022年度 大会 東洋史部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 戸川貴行
2. 発表標題 中国古代の音楽と政治
3. 学会等名 公開学術講演会（就実大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 戸川貴行
2. 発表標題 南斉・梁における『周礼』の受容について
3. 学会等名 東方学会・秋季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林聡
2. 発表標題 漢唐間における服制史概観 朝服制度の変遷を中心に
3. 学会等名 共同研究「3世紀東アジアの研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大地聖子
2. 発表標題 北魏墓誌の用語の選好性に見る文化的社会集団の復元
3. 学会等名 史学会大会東洋史部会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 戸川貴行、佐川英治、王安泰、付晨晨、岡部毅史、アンドリュー・アイゼンバーグ、小尾孝夫、魏斌、小宮秀陵、河上麻由子、足立広明	4. 発行年 2023年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 360
3. 書名 多元的中華の形成 東アジアの「古代末期」	

1. 著者名 戸川貴行、荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、安村 直己、吉澤 誠一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 322
3. 書名 中華世界の再編とユーラシア東部 4～8世紀	

1. 著者名 戸川貴行、福永善隆、渡邊将智、岡田和一郎、小野響、永田拓治、堀内淳一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 漢とは何か	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	戸川 貴行 (Togawa Takayuki) (60552255)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授 (12611)	
研究 分 担 者	石原 聖子 (大知聖子) (Ishihara Seiko) (80650647)	名城大学・理工学部・准教授 (33919)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関